

第4回茅野市地域創生総合戦略進行管理有識者会議

開催日時	令和元年11月18日(月) 午前10時から正午まで		
開催場所	ゆいわーく茅野		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
事務局	<p>会議次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 委嘱書交付</p> <p>3 あいさつ</p> <p>4 自己紹介</p> <p>5 会議事項</p> <p>いただいた意見等に対する回答について(資料11)</p> <p>————— 各課より説明 —————</p>		
委員	<p>空き家のことでお伺いしたい。最初にこの総合戦略は10年、20年先を見てという話であったが、(都市計画課からの説明によると)空き家対策について必要性を感じているが計画に記載するのが適当でない、ということがどういふことかよくわからない。10年、20年が経過すると空き家はすべて潰れてしまうということなのか。また、茅野市では交通の確保が問題になっているが、交通を維持する集落をしっかりと決めて、空き家を活用してでもコンパクトな市を作っていこうという方針なのか。そういうコンパクトなまちづくりの中で空き家を有効に使おうと思っているのか、そうでなくて自由に空き家を活用してくれという形なのか、空き家の活用方法についてもよくわからない。都会の方が田舎に憧れて農ある暮らしを楽しみに移住してくる、ということは今もあるかと思うが、一方で市内に新たな企業ができ、働きに来る方が見込まれる中で計画に入れこまなくても良いのか。</p>		
都市計画課長	<p>空き家対策について、この資料の中で「総合戦略に記載しない」、と回答しているのは、委員から出された「空き家には住宅の税金の控除が適用されない、というのが本来の姿ではないか」というご意見に対して。税金の控除が適用されないことが、直接的に移住・定住促進につながるものではないため総合戦略への記載が適当でない、という話。我々が目指すところは、空き家と住宅を取得したい人とのマッチングを図っていききたい、ということ。住宅を取得したいが空き家はないか、という申し出があったときに提供できるようなシステムが確立できれば、それが望ましい姿ではないかと考えている。今後市民からの相談を受けられるような窓口を設置して門戸を広げるとともに、市民の皆さんにも空き家についてもっと真剣に考えていただくための啓発をしていきたい。</p>		

委員	<p>それに付随して、建築をやっている立場からすると茅野市の空き家を考えるときには住宅の性能評価を考えた上で利用法を考えて欲しい。特に寒い地域なので暖房費がかかってしまう。耐震基準では昭和 56 年の基準があるが、平成 11 年の新築住宅を作る際の断熱基準の指標というものもある。空き家も何でも良いから再利用するということではなく、きちんと分類をして、性能評価を入れた上でどれをどう使うか、ということが必要ではないか。古民家を改修したい、という人もいるが、古民家を現代用にすると恐ろしいほどのお金がかかる。それが果たしてまちにとって経済的に良いかという議論もきちんと行わなければならない。これからは資産としてのストック型社会になっていくので、きちんと平成 11 年の断熱基準を満たしているか、最新の耐震基準を満たしているか、また、まちのストックとして使える空き家なのかを、しっかりと分類する指標があった方が良いのではないかと考えている。</p>
委員	<p>空き家も大事だが、空き地も目立ってきている。特に、農業を辞めてしまった後の、草が生えているような空き地ができるのと景観的にも良くない。いままでの風景が変わってきてしまっている状況を見ると、空き地も含めてまち全体の景観をどう見せていくか、という大きな指標が必要なのではないかと感じている。空き家や空き地が増え、「なんとなく寂れているな」という風景が広がっていると訪れた人にも良い印象を与えない。空き地にソバの種をまくなど、大きな予算をかけなくても、景観に対する意識を持ってもらうことで土地の所有者にも協力してもらえることがあるのではないかと。まち全体の見え方として、空き家と空き地はセットで考えるべきである。</p>
農林課長	<p>農業振興農地、いわゆる青地と言われる農地の遊休農地対策として、茅野市では、お米が作れなくなればそのままにするのではなく、国、県の交付金等を活用しながらソバ栽培を行えるよう支援を行っている。あとは地域の集落の組織と何かできないか、ということで協議をしながら対策をしている状況。青地については宅地への転用ができないが、集落内のいわゆる白地と呼ばれる、宅地等へ転用ができる農地の取り扱いについては、こちらでは対応はできない。そこは太陽光だとか、別の形で利用をされているのが現状。</p>
市長	<p>空き家や遊休農地の対策については数値化をしても良いものの一つかと思う。議論の中で考えていければと思う。</p>
委員	<p>インフラの関係で言えば、例えば水道や河川工事等があるが、茅野市内各所で、木の枝が電線に接触している問題がある。このままいくと今回の台風ではないが、大雪が降ったときにも電気や通信の関係で大きな痛手になるのではないかと。これについては地区から要望書を通して今後コミュニティや市に届くと思うが、そんな悠長なことは言っていられない。できれば地域の問題を的確に把握して動けるような対策、また予算化も検討した方が良いのではないかと。特に民地と民地の間に配線があるところ、公有地と民地の間に配線がある場所の木は切るのが難しい状況がある。山の方に行けば行くほど、特に八ヶ岳や西山の方ではそういうことが見受けられる。早急に予算化をして対策を進めないと、自然災害が発生した時には一番問題になるのではないかと。先ほど委員がおっしゃった遊休農地については、害虫の問題もある。空き家、空き地の草を刈るにあたってはシルバーセンターをどう活用し</p>

	<p>ていくかが重要。シルバー人材センターも高齢化して動きづらい、ということはあるが、地域の見た目を良くする取組についても市で取り組んで欲しい。これはSDGsの中に陸上生態系の保護、森林の持続可能な管理という指標にもあるため、取り組んで行っていただきたいし、計画の中にも入れ込んで欲しい。もう一つ、豚コレラが猪にも伝染し、動物たちが処分されている、ということも起きている。ワクチンの対応を進めているようだが、十分に進んでいないのではないか。5年後にはこの問題がすべて解決するよう計画に盛り込んでもよいのではないか。</p>
農林課長	<p>ライフライン沿いの支障木については、昨年の台風で（倒木等により）停電多くが発生したということも受けて県の方で補助金を作り、今年度から伐採を開始した。主に別荘地を中心に、市内全域を数年かけてやっていこうと計画している。今年度は県から予算的に1,000万円ほどいただいた。ただ、電線沿いの支障木はクレーン等で釣らなければならず、一本を切るにも高額な費用がかかる。この予算では本数的には100本ちょっとしか切れない。現在、県の方からも第3次の要望が来ており、さらに1,000万円という要望を出している。それが通れば3月の補正予算等で対応し、次年度に繰り越す形で伐採を進めていきたいと考えている。また、豚コレラについても農林課で対応しており、10月12日に市内山林で経口ワクチンを散布した。諏訪6市町村で対策を進めているが、山梨でも出てしまった。豚コレラに関しては県から指導をいただきながら実施をしていくということになると思う。</p>
市長	<p>現在、昨年の停電の被害のあったところを中心に伐採を進めている。原資は県民の皆様からいただいている森林税。その補助金をいただいて茅野市が実施している。これは来年も引き続きでやっていこうと思っているが、茅野市は森林が広範にわたっているため台風の進路によって被害を受ける場所が違う。一気に解消はできないが地道にやっていきたい。豚コレラは県の所管になるため、県の指導に基づいて対策をしていく。ワクチン接種については、ワクチンを打つと出荷ができなくなることを恐れて県が結論を出すのが遅かった。それが各市町村の対応が遅くなった原因である。今後は全国に広がらないように取り組んでいく。掲載する指標等も十分に検討課題になるかと思うが、土地利用だとかそういった話は都市計画とリンクしていくため、全体で考えて議論していければと思う。</p>
委員	<p>消防団の関係について、先ほどの回答の中で上の年代の人を予備団員のよう形で入れ込んで、という話があった。実際私も消防団を10年やっていて40歳を過ぎても現役の団員であるが、今既にやっている人がもう10年やらなければならないのか、という感覚になる。上の年代の人を入れて一緒に、というサポートも大変ありがたいが、結局もう10年ぐらいはやらなければならないのか、というのが現在消防団として活動している立場からすると思う。できれば新しい、自分たちよりも若い人たちが消防団に入る体制というのも考えていって欲しい。消防団は区とか地域から人を出してという形であり、市としてもそこをサポートする話になるのかと思う。しかし、実際出動するときには勤めている会社に許可をいただいて出てくるとか、夜勤けれどもこの操法の期間だけは勤務をずらしてとか、そういう話を会社に言える若者も減っているし、そこまでしてやりたい若者がそもそもいないのが現状。商工会議所などを通じて企業に消防団との関係をもう少し理解を</p>

	<p>いただいたり、消防団員を多く出している企業には補助を出したりという方を強化する話を進めて欲しい。諏訪圏域の住民の 90%以上は諏訪圏域で働いている。消防も広域になっているので、広域連携を含めて企業と消防の連携を強化して欲しい。また、消防団の団員数の見直しをしっかりとして欲しい。私の部では、登録しているのは 17 名だが実際出てくるのは 5 名しかいない。昔は 17 名でやっていたことを 5 名でやっているので負担もとても増えている。2、3 年でやめられるのであれば少人数でもできなくはないので、そういったことも含めて活動と人数のバランス等を見ていただきたい。もう少し広い目線で様々な可能性を考えながら今後対策をしていただきたい。</p>
<p>消防署長</p>	<p>たくさんのご意見をいただいたが、まず消防団の人員の削減について、茅野市は消防団の定数が 967 名。これは同規模の市からすると若干多めであると感じており、その見直しもしなければならないと思っている。しかし、茅野市は村の合併を繰り返して市になったということで、隣の村、行政区同士のつながりが希薄である。自分たちの行政区は自分たちの消防団が守るという意識がずっとあり、なかなか合併ができない。消防団の地域を越えた協力体制がとれず問題になっている。そんな中で先ほども話にあったが、諏訪圏域の住民は諏訪圏域に勤めている方がほとんど。今消防団は茅野市に住んでいる人を対象にしているが、茅野市に働いている方を対象にしても良いのではないかと考えている。例えば、何々会社分団として、茅野市で勤務している方も機能別消防団になり得るのではないかと。また、60 代の方、70 代の方でも、元気な方は機能別消防団に入れるのではないかと、ということで、大きい災害や台風が発生すると地域の消防団が必要になってくることから、一概に消防団員の削減を考えるのではなくて、何人くらい必要なのか、地域とのやりとりをしながら定数を考えている。そういったことも含めて消防団総合計画の策定を令和 2 年度中にはできないかと考えている。</p>
<p>市長</p>	<p>消防団の関係は、まちづくり懇談会でも必ず出ている。しっかりと検討していきたい。時間もきているため一旦質問は閉じさせていただき、会議事項の 2 に移らせていただく。</p>
<p>事務局</p>	<p>第 2 次総合戦略の策定方針について（資料 12-1、12-2、12-3） <p style="text-align: center;">——— 説明 ———</p></p>
<p>委員</p>	<p>今回初めて参加し、まだ把握はできていないが、農業関係の内容が少ないのではないかと感じている。今後質問等していければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>自然増に向けては、おそらくジェンダーギャップの改善というものを一番最初にやらなければならないことだと思う。一方、社会増については、まちの中で年齢層のバランスが悪いことから、おそらく家族が来て欲しいのでは、と資料を見ていて思った。家族を茅野市に入れるには教育が一番大事ではないかと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>どちらかという交流人口を増やす、というのが主眼の計画ではないかと思うが、観光事業としても関係人口を増やす、移住される事業者を増やす、と</p>

	<p>というのが課題。今日も拝見していて、関係人口を増やす、というのをもう少し厚くできたらと感じた。観光として「住んでよし、訪れてよし」という言葉がある。登山ガイドやインストラクターといった専門的なガイドだけではなく地域のおばちゃんキノコ狩り案内のようなものも含めて、この地域の魅力や、住んでいる人の誇りを次の観光のお客様にお伝えする方を増やすことが、他の上手くいっている地域での一つキーポイントかと思っている。関係人口というところに関しては、そこをどう増やすかというところが指標に入ってくるとよいのではないか。また、就業の部分で二拠点居住や関係人口を増やす、という目標があるとすれば、副業や受託事業等のフルタイムでない二拠点居住の方を雇っていただける事業者さんへの支援だったりとか、そういう部分の KPI があると目標の達成が早くなっていくのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>私たちもそうだったが、子どもたちがはたしてどこまで茅野市のことを分かっているのか、ということに改めて思った。私も小学生、中学生の時に特に茅野市のことについて勉強した、という経験はなくて、ある程度大人になってから茅野市のことを知ったのではないかと思う。学校教育の中で茅野市の学習を設けていただいて、それを書面でまとめるのではなく映像でまとめていただき、YouTube や Facebook で発信していければ、広報にも、また観光（振興）にもつながると思う。それを毎年行うことで、中学生なら受験勉強になると思うし、各地域の課題としてやっていただければ小学生の勉強にもなるし、広報の活路にもなる。コストもそんなにはかからないのではないかと感じた。</p>
<p>委員</p>	<p>非常にわかりやすい資料がついていたのではと感じた。特に資料 12-3 は、それぞれの事業と KPI から見て、人口増加に対してどのように対応するのか、という事で分かりやすかった。あとはどこが一番問題に感じているのかを説明していただければと思った。ぱっと見たときに茅野市外からの移住促進の関係のフェーズ③「茅野市の関係人口」の政策が少ないのではないかと思った。今はそのフェーズではなくて別のところが問題だ、ということでそちらに集中されているのであれば良いのだが、まんべんなくやっても有効な手段にならないのではないかとも思うので、うまく会議で議論していければ。</p>
<p>委員</p>	<p>これだけの人たちが集まって、こういったことを考えて、多くの把握しきれないほどの項目に対して色々な人が色々な形でかかわっていて、こういうことを真剣に考えながら、未来の茅野市について考えている、というのを、今回の会議に参加したことをきっかけに周りの人にも話をして、そこでも意見を集約してまた会議の場で伝えられればと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>今回の計画策定にあたって SDG s の 17 の項目が、どれに対応しているのか、という資料を次回にでもまとめていただければと思う。先日 SDG s の研修会に行き、日本では女性の活躍推進、持続可能な消費と生産の促進、先ほどの気候変動の対策、グローバルなパートナーシップの活性化、の 4 項目が特に低いと学んだ。特に女性の地位向上については日本は 180 か国中 120 位ぐらい。女性が旗振りができていないというのが実情。茅野市も半数ぐらいは女性活躍の世界が目の前にあればよいと思う。2030 年の目標であるが、10 年後に茅野市がすべて達成できていれば良いなと思う。</p>

地域戦略課

先ほど時間の関係で話ができなかったが、資料 12-4 が第 2 次の総合戦略の様式になる。1 枚目が第 2 次の体裁、2 枚目が現在の体裁になるが、第 2 次では罫線で区切ってより見やすくする予定。また SDG s についても 17 のゴールをアイコンで入れ込んでいく予定をしている。入れ込む項目のレベルについては検討が必要かと思っているが、今度の計画では SDG s についても見せていきたいと思っている。

(その他意見なし)

6 その他

7 閉会